まちづくり・潮来の自然と歴史を知る

潮来市の誇れる文化

第127回

芭蕉句碑　子日庵一草の時雨塚

長勝寺庫裡に向う中雀門手前の繁みに苔むした石ぶみがあって、「たび人と我名よばれむはつしぐれ　ばせを」と刻まれています。

この句は、俳人松尾芭蕉が貞享四年（一六八七年）奥の細道の長旅に出るにあたって深川芭蕉庵の送別の席で詠んだという。空はしぐれ模様、風に舞う木の葉のように行き先定めのない旅先きで「もし、旅のお方…」とでも呼ばれる身になるであろうか、と。そして、この句碑の建立者は、碑陰に示されている通り奥州南部（現在の岩手県北上市）出身の也鳧庵一艸（草）という江戸時代の俳人です。ことのほか芭蕉の崇敬者だった一草は、俳聖芭蕉百年忌を期して翁の句碑をつくることを志し、命日にあたる寛政元年（一七八九年）十月十二日にこれを建てました。子日庵とも称した一草は長勝寺で得度出家し、はからずも地元潮来の排士某から秘蔵の蕉翁自筆という「旅人と…」の短冊を託されたことから境内にそれを埋め込んで時雨塚とし、芭蕉百年忌も営まれたとされます。（子日庵一草編潮来集序文から）

尚、寛政五年には、ひろく六七九句を集めた句集「潮来集」を刊行。以後は時雨坊を名乗り、各地を行脚して蕉風の高揚につとめたと言われています。

潮来市文化財保護審議会委員　谷　玄明

芭蕉句碑　子日庵一草の時雨塚（長勝寺境内）

潮来市の誇れる自然

第36回

追跡！巨大ナマズ ―湖沼の外来生物問題の最前線―

茨城大学水圏センター（潮来市大生）は、全国の大学生たちが湖の環境問題について総合的に学べる施設として、文部科学省に認定されている国内唯一の臨湖実験所です。夏休み中には、霞ケ浦・北浦をフィールドに学ぶ5つの公開実習に学生たちが集まりました。

8月17～19日の公開臨湖実習「追跡！巨大ナマズ ―湖沼の外来生物問題の最前線―」には、北海道大、岩手大、東北大、東洋大、帝京科学大、山梨大、近畿大、三重大の12名が参加しました。この実習の教材は、北浦にたくさん生息している、北アメリカ原産の外来ナマズ（チャネルキャットフィッシュ）です。まず、捕獲調査や食性調査を通して外来ナマズの脅威を体感してもらい、次いで、湖岸でさまざまな方法で魚類調査を行い、希少な魚たちやワカサギ・シラウオ・エビ類などの水産資源がまだそれなりに生息していることを確認しました。最後に、二つの班に分かれて考案した駆除方法を試して、班別対抗で駆除数を競い合いました。外来ナマズは多数捕獲され、対策についての議論も大いに盛り上がりました。

参加学生からは、「北浦には絶滅危惧種を含む在来魚がまだ残っていてうらやましい、豊かな自然を大切に守っていってほしい」、「外来ナマズ問題を一般の人たちに知ってもらうことは急務」、「市民の方々と釣り大会を開催し、地域を盛り立てていけばよいのでは」など、様々な感想がありました。今年も、学生たちが湖の環境や地域のことを考える良い機会となったようです。

茨城大学広域水圏環境科学教育研究センター　加納　光樹

北浦湖岸での在来魚の調査

実習で採れたチャネルキャットフィッシュ

いきいき茨城ゆめ国体2019 潮来市開催

Vol.14 いきいき茨城ゆめ国体2019潮来市ボランティア募集

潮来市開催競技シンボルマーク

潮来市では、全国から参加される方々を温かくお迎えするため、「いきいき茨城ゆめ国体」の運営や準備を支えてくれるボランティアを募集しています。

▶**活動内容**　受付、会場案内、駐車場整理、広報・記録、ＰＲ活動等

▶**募集人員**　２００人（募集人数に達した場合は、受付を終了します。）

※報酬はありません。交通費も自己負担となります。

▶**活動時期**

オープンウォータースイミング	トライアスロン	ボート
2019年9月10日（火）・11日（水）	2019年9月28日（土）・29日（日）	2019年10月3日（木）～ 7日（月）

※１日単位で参加ができます。このほか、研修会、ＰＲイベント等への参加があります。

▶**申込資格**　２００４年４月１日以前に生まれた方

▶**申込方法**　国体推進室窓口に備え付けの申込書に、必要事項を記入のうえ、持参、郵送、ＦＡＸでお申し込みください。ただし、18歳未満の方は保護者の同意書が必要となりますので、持参若しくは郵送でお申込みください。

【申込・お問合せ】
いきいき茨城ゆめ国体潮来市実行委員会　事務局　生涯学習課国体推進室（中央公民館内）
〒311-2423　潮来市日の出３－11　☎ ６６－０６６０　ＦＡＸ ６６－４３３９
http://www.city.itako.lg.jp/kokutai/
Facebook・Twitter・Instagramでも情報発信を行っています。

国体　潮来市　検索

学んだことを家庭で実践

家庭と幼稚園・保育所をつなぐ　第9回

お泊まり保育

今年も七月後半に年長児がお泊り保育を行ないました。場所は子どもたちが生活に慣れている幼稚園です。自分のことは自分でする、協力し合う、助け合う、みんなでやり遂げる、規則正しい生活をするなどを目標にしました。

お泊まり保育の内容は次のようです。

まず、どんなことをやってみたいか、話し合いました。活動の一つとして「お化け屋敷がやってみたい！」との意見がでました。「お化け屋敷ってどんな感じかな？」「どんなお化けがいるんだろう・・」「こんなお化けを作ってみたいな！」と話し合いを積み重ねていくうちに少しずつ具体的になっていきました。友達とイメージが共有できるようになり、自分の思いを相手に伝えられるようになったり、また、友達の意見にも耳を傾けたりする姿も見られるようになっていきました。協力し合い、皆で取り組んだお化け屋敷が完成しました。当日は、楽しみと緊張が入り交じりながらも、勇気を出して自分たちで作ったお化け屋敷にチャレンジしていた子どもたちでした。

その他には、買い物体験や夕食づくりのお手伝い、花火やスイカ割りなども楽しみました。

夕食づくりでは、お米を研いだり野菜を切ったりしました。「お家でも練習してきたよ」と話してくれた子もいました。普段からお手伝いをしている子はとても上手でした。

夕食後は「野菜苦手だけど自分で切った野菜だから食べられた」など子どもたちからの感想が聞かれました。

着替え・就寝準備・荷物の整理整頓や片付けなど身の回りことは自分で行いました。また、顔を洗ったり歯を磨いたりもしました。これらの活動は家庭での生活習慣が十分に生かされていました。

子どもたちが自分の力で最後まで頑張る姿がたくさん見られました。

翌日、お迎えに来た家族に会った時の子どもたちは、「お泊まり保育、楽しかったよ」「ちゃんとできたよ」と自信たっぷりの表情でした。

お泊まり保育は、子どもの成長に大いに役立つ園行事であることと家庭との連携の大切さを改めて感じました。

潮来市立延方幼稚園